

自分だけの 個性的なノート作りを

東京都台東区立御徒町台東中学校教諭 甲斐 利恵子

ノート指導のポイント

わたしのノート指導を具体的に紹介したいと思います。ポイントは、次の三点です。

- ① 授業の内容が一目で分かるようにすること。
- ② 事実をきちんと記録し、そこから学んだことや課題をはっきりさせ、学習を客観的にとらえ直すこと。
- ③ メモ欄を常に意識して、学んだ言葉や聞き取った重要な事柄などを記録するという習慣をつける。

これらのポイントを意識しながら指導をするわけですが、これが毎回のこととなると容易ではありません。

まずいちばん効果的なのは、中学入学期の授業開きの時の指導です。ノートは板書を写して、学習をきちんとまとめるのだということとはもとより、自分の学習の足跡を残すこと、学んだことを逃さず、さっとメモをして自分だけのノート作りをすることなどを伝えます。何をどんなふうに書くことがよいノート作りと言えるのか、具体的に示していくことが肝要です。

資料1

日付と回数

学習の予定

休み時間の間に国語係が板書します。チャイムと同時に書き始めるということにしています。

第一回目なので、評価項目を書いております。○△×で自己評価をしています。

授業記録

初めての記録なので、時間を多めにとって書かせました。「事実」「学んだこと」「感想」の三本柱です。

メモ欄

授業中に辞書を引いたらすぐメモ。このときは「辞書早引き」で引かせたもの。この生徒は12番だったことがわかります。

「初め・始め」の類語の学習から。このときは11番でした。



ノート指導はどのようにすればいいのでしょうか。先日、授業中に何も書かない生徒がいて、注意したところ、「ノートなんて、黒板に書いてあることを写すだけ。自分にとっては何の役にも立っていない。何のためにノートを書くんですか。」と言われました。ノート指導の基本的な考え方や指導の方法、留意点などを教えてください。

中学生になったばかりの新鮮な気持ちの時にしっかりとノートの大切さや、書き方、使い方が理解できるよう指導することが大切です。そしてなにより習慣にすること。

でも、中学二年からでも、三年からでも大丈夫です。子どもたちは常に「いいこと」「自分の力が伸びそう」と感じたことにはぐんぐん取り組むからです。

とはいえ、なんといっても中学生の口癖は「めんどくさい」。いろんな場面での言葉を口にします。そんな時期のノート指導はなかなか大変ですが、何をどうすればいいのかわか明確にして「めんどくささ」に打ち克たせてあげましょう。

ノートの指導は先生方一人ひとりの個性が出ていいと思います。今回はわたしのノート指導の一端をご紹介します。



■授業記録の三要素

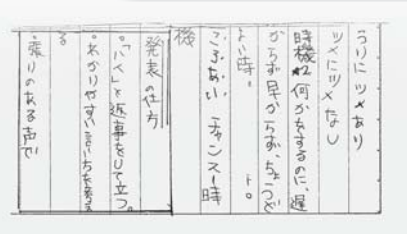
資料1で示したノートの真ん中の欄を「授業記録」ということにしています。授業記録は「事実」「学んだこと」「感想・課題」の要素を入れて書くことになっています。事実を具体的に書いていくことは結構難しいのですが、慣れてくるとささっと書けるようになります。

同じ授業を受けた人の授業記録を見せ
て、どんなふうに三つの要素を入れてい
けばいいかを具体的に示すといひようです。
また、初めのうちは、授業記録を書く時
間を確保するように心がけておいた方がい
いでしょう。授業の最後の五分間を授業
記録にあてると、上手に書けるようにな
ります。だんだん慣れてくると、授業中
に時間を設定しなくても書けるようにな
ります。

定期的に集めると気分が引き締まるようです。わたしは授業の十回分を定期的に見るようにしています。

■メモ欄の充実を

資料1で示したように、ノートの下のカラムはメモ欄です。授業中に心にとまっていた言葉や疑問、感想などをメモします。ここに、一人ひとりの個人的なメモ欄ができれば、



資料2

また、この欄は、教師自身の授業の振り返りにも有効です。授業の中で、どのくらい言葉に着目して進めているかがすぐに分かります。実際に使われている場面、言葉に注目していく態度はやはり、国語科の基本的な姿だと思っています。

辞書をなるべく引くように、辞書を引くことが自然にできるようになるといいなと思います。次に示したもの（資料2）は、メモ欄です。いろいろな工夫しているのがわかります。

ノート指導を定着させるために

■友達のノートから学ぶ

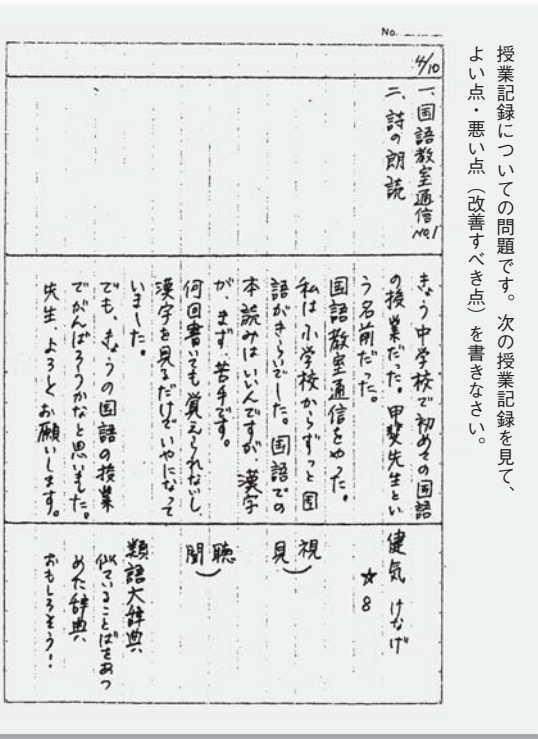
どんなことをどのように書けばいいかは子どもたちのノートを集めると必ず、お手本となるようなものがあります。何はともあれきれいで丁寧な字であったり、メモ欄が充実していたり、学んだことが的確に書いてあったり、感想がとてもよかったです。子どもたちの書いたノートをいくつかコピーして配布すると、すぐに子どもたちのノートの質が improves します。

このようなことをしないで、□だけで「充
実したノートにしないさい。」「学んだことを
きちんと書きなさい。」というだけでは具
体的な指導をしておらず、自分のノートを
自分で評価する観点を獲得できません。

次に示したもの（資料3）は、コピーして配り、評価したものの一部です。まずは褒めます。そして、改善点を述べていき、最後に「まとめ」として板書します。こういった細かい指導は一年の最初にやるべきことですが、二年生や三年生だからといつてなにもしないでいるとすぐに「めんどくささ」に負ける人になります。忙しい毎日ですが、定期的に点検するとノートの質が下がってしまうのを防ぐことができます。そして、その都度、充実した授業記



▶ 資料 3



授業記録についての問題です。次の授業記録を見てよい点・悪い点（改善すべき点）を書きなさい。

資料 4

録を紹介するとよいでしょう。

■ノートの取り方と定期テスト

わたしはこのようなノートの取り方や読書記録の取り方なども、教えたことはほとんど定期テストに出題することにして
います。

何を教えようとしたかが明確であれば、必ずテスト問題を作ることは可能だからです。次に示したもの（資料4）は一年学期の中間テストの問題です。自分のノート

子どもたちは記録をしながら、そのときそのときに自分の学習を振り返り、「書く」という行為を「習慣」として行っていることがわかります。

「記録がないのは、無かったことと同じ」とおっしゃっていましたが、まさに書くこと、記録することが生活の一部になっているように感じました。

ただ、なによりも大切なのは、子どもたちが記録したいと思えるような授業をしているかどうかということです。ここに立ち返るのは自分にとって厳しいことですが、子どもたちが書いたノートは、まさに、わたしたち教師自身の授業記録でもあると思います。